果敢

ウトナイ中

1-1

生徒と保護者にアンケート調査

SNS利用に対する意識の違い

保護者59%利用に賛成だが

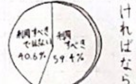
七月に一年一組保護者にSNS利用に関する調査をした結果、SNS利用に対して肯定的な考えを持つ反面、指導に対しては不安を抱えているという結果になった。

一年一組の生徒とその保護者、共に32名に対して「SNSの利用に関して」アンケート調査を実施した。「中学生はSNSを利用すべきか？」という質問に対し、生徒側は78%が利用すべきと答え、その理由は「便利だから」「新しい情報を手に入れやすいから」という回答が多かった。

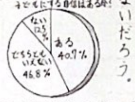
一方、保護者側に対し、同じ質問をしたところ「中学生はSNSを利用すべき」が59%にまで達しているという意外な結果が得られた。「利用すべき」と考える保護者側の意見として「コミュニケーションの手段としてあってもよい」「様々な情報交換によって多様性が広がるから」という回答が多かった。また、「利用するべきではない」と答えた41%の保護者側の意見として多かったのは「個人情報が出回ってしまう」「SNSが気になり勉強が疎かになる」など生徒側の身の安全と学力低下への不安が、反対する主な理由となっていることが明らかになった。「SNSを利用すべき」と答えた生徒と保護者の中で、利用を開始すべき年齢について、生徒側と保護者側の考えを比較したところ生徒側で一番多かった回答が「小学校高学年40%」に対し、保護者側で最も多かったのが「中学一年生63%」という結果となり、開始する年齢については親子の中で若干の差がみられることがわかった。また、保護者の中で「保護者自身がSNSを利用しているか？」という質問に対して70%の保護者が自身も利用していることがわかり「SNSに対する指導を子どもにする自信があるか？」という質問に対しては、13%が自信がないと答え、47%がどちらとも言えないと回答した。このことから60%の保護者がSNSに対する指導に対し、はっきりと自信があるという状態とは言えないことが明らかになった。今回のアンケート調査で意外だったことは、保護者の中にもSNSの利用について、賛成という考えも多かったことであり、その反面、多くの保護者はSNSの複雑な仕組みを理解し、子どもに指導できるかに対し不安を持っているということだ。

私達はSNS利用について単純に保護者が賛成していると捉えるのではなく、保護者も多様化するネット社会に、自信を持って指導できないという側面を理解したうえで、危険性についてよく勉強し利用しなければならないだろう。

保護者へのアンケート
中学生はSNSを利用すべき？



SNSに対する指導を子どもにする自信はあるか？



一人一人の意識が大切

一年一組は、とてもポジティブで、いろいろな事に積極的に行動する人が、沢山いるクラスである。中学校生活にも慣れ、気の緩みが出てきた一学期後半に、ある取り組みを通して、このクラスに欠けている事が明らかになってきた。それは　毎日の授業態度で、なかなか良い評価がもらえないという事だった。六月、学年協議会の取り組みの一つとして、学年統一の目標をクリアしようといった企画が実施された。この企画は、各学級がそれぞれの授業で、先生方に授業態度を五段階で評価してもらう中で、一日を通してオール五という評価を二回達成しようといったものであった。各クラスが着々とオール五を達成していく中、一組だけがオール五を達成できなかったのだ。

この結果を反省し改善するために、学年協議会が集計した二十項目の個人反省のデータを基に学級会が開かれた。このデータによると「授業道具の忘れ物をしなかった？」という項目に対し31%が「できていなかった」と回答した。

「授業中の私語をしなかった？」という項目では、29%が「できなかった」と回答した結果となった。私語については、誰か一人が話し始めると、他の人達も話にかぶせて、余計な時間になってしまう事が多いとの意見があり、忘れ物が多いことも改めて確認された。また、学級会の中で、班会議を行った結果、多くの班からは「お互いに注意するべき」「自分自身で考えてから行動するべき」という改善策が話し合われた。私たち一年一組は、このような課題について、話し合うだけではなく行動に移していくことが大切である。授業がストップしてしまった場合「静かにして」などを誰かが注意される前に気づき、言い合えるようになるべきである。忘れ物についても、自分自身で明日の授業を思い浮かべる想像力を持たなければ、いつまでも減っていかないだろう。つまりは「一人一人の意識」がとても重要なのである。何事にも前向きな一組だからこそ、きっと改善できることだと思う。

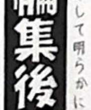
快挙 ウトナイ中男子バスケ部全道へ

第五十一回胆振中学校バスケットボール競技大会が、七月三日、四日の両日に室蘭市体育館で行われ、ウトナイ中学校男子バスケットボール部が優勝し、七月二十八日から札幌市で行われる全道大会の切符を勝ち取った。ウトナイ中学校は、地区予選での順位は二位でこの大会に進出していたが、初戦の鷲別中を59対53でくだし、勢いに乗り、続く準決勝も啓北中を53対47で退け、決勝の光洋中戦へとコマを進めた。決勝戦第一ピリオドは11対11と同点で終了。

第二ピリオドでは7点の差をつけるも、第三ピリオドで2点差に詰め寄られてしまう。しかし、第四ピリオドを19対15で再び突き放し、悲願の全道大会進出を決めた。優勝監督となった小野輝史先生に大会の感想を伺うと「メンバー全員が一丸となって戦った。」と語り、特に活躍した選手をあげてもらうと、三年生、山田泰成選手、二年生、金澤優太選手、一年生、八戸陽生選手の名前があがった。それぞれの選手に勝因や心がけたプレーなどを聞いたところ、山田選手「一人一人が、フリースローなどの細かな得点をしっかりとれた事。」、「自分は、とにかくみんなが焦っている場面で落ち着いてプレーする事を　心がけていた。」金澤選手「自分よりも体が大きかったり、年上でも絶対に負けない気持ちを心がけた。」八戸選手「一年生が新しい戦力になれた。」「スリーポイントを二本決められた。」と三選手とも冷静に振り返っていた。また、部長としてチームを牽引した長尾隆斗選手に、優勝の瞬間の、チームの様子を聞いてみると「うれしすぎてよく覚えていないが青木先生に背中をたたかれた。」と笑顔で語っていた。ウトナイ中の男子バスケットボール部にとって初の全道大会となるが、きっとこれからの飛躍に繋がる大きな一歩をつかんでくれるだろう。

綺麗な町になるために

一年一組の保護者32名に対して「ゴミの問題」についてアンケート調査を実施した。「町の中でゴミが気になる場所は？」という質問に対し多くの情報が寄せられた。その場所とは、高速道路周辺と中央分離帯であった。実際に周辺を回り、調査した結果、情報のとおり高速道路と中央分離帯にはおそらく投げ捨てられたゴミが散乱していた。また、これから住宅が建つ予定の区画整理されたエリアにもゴミが多いという事態が起こっていた。予想ではあるがこの三つのエリアのゴミはドライバーが投げ捨てたゴミと考えられる。アンケートではその他に「各家庭でのゴミを減らす工夫」についても回答してもらった。「詰め替え用品とマイバックの活用」「コンビニで箸やスプーンをもらわない」「食品ロスをなくすための無駄のでない献立」「ペットボトルを減らすための水サーバーへの切り替え」といった素晴らしい工夫を実践している情報が多く寄せられた。この町が本当に綺麗な町になるためには「ドライバーのマナー向上」と「ゴミを減らす家庭の工夫」の二点が、きっと重要になるということが調査をとおして明らかになった。



公園にまつわる噂

公園といえば子ども達の噂話が尽きないものだ。ついつい耳を傾けてしまうもの。あなたは信じますか？

そこで一年一組を対象に公園にまつわる噂をアンケート調査してみた。するとウトナイ5号公園に関する噂話が特に多くあがった。5号公園の噂は、この公園が呪われているという噂で、自転車に乗った人形が動いていたという幽霊ネタや遊具に書かれた謎の文字、猫が住みついているという噂話もあった。公園に興味を持った我々は、苫小牧市建設部の田上係長に　ウトナイ地区の公園について問い合わせたところ、この地区には1号から8号の公園が存在するということだ。念のため公園を調べて回ると、4号と8号がどこを探しても見つけられなかった。再度問い合わせてみると、4号は開設予定のままで、まだ開設しておらず、8号は存在するということで地図が送られてきた。実際に行ってみると、公園はなんとも不気味な雰囲気が漂っていた。ウトナイ地区の子ども達は、きっと8号公園の存在を知らないだろう。まさしく噂の公園「8号公園」はいったいどこにあるのだろうか？

編集後記

「果敢」には勇気をもって挑戦するという意味が込められ、取材を通して身近な事に対して新しい発見があった。

編集

オリジナル S 106